



事業所における自己評価総括表

事業所名	おもちゃ箱つき		
保護者評価実施期間	2026年1月20日		2026年2月7日
保護者評価有効回答数	(対象者数) 32	(回答者数) 21	
従業者評価実施期間	2026年1月20日		2026年2月7日
従業者評価有効回答数	(対象者数) 9	(回答者数) 8	
事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強みだと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団のSSTトレーニングを定期的実施している	子どもの実態に合わせて、集団でのSSTトレーニングを実施している。悪い例のロールプレイを職員が行い、それを見て考えてもらうことで、社会で生きていくために必要なことを学ぶ機会としている。	より正しいコミュニケーションを身に付けられるよう、相手のことを考えたコミュニケーションの実践練習をする機会を多く設けるようにする。
2	小集団での独自の活動として、クラブ活動に取り組んでいる	複数のクラブから自分の好きなクラブを選択する機会を設けるなど、自分自身の力で活動を選択できるようにサポートしている。	それぞれのクラブが半年ごとに成果を発表できる機会を設けることで、達成感を感じてもらいつつ、お互いに認め合える機会としていきたい。
3	保護者と綿密に話し合って作成された個別支援計画に沿った支援ができています	6ヶ月に一度の保護者との面談で丁寧に支援内容を話し合い、その発達段階において必要な支援に取り組むよう心掛けています。	職員全員が集まる機会を設けて、そのタイミングでそれぞれの個別支援計画についての情報を周知する職員会議を実施していく。

	事業所の弱みだと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設が狭く、活動スペースを確保することが難しい	施設の中で区切られた部屋が複数あることはクールダウン等の用途においてポジティブ要素だが、全体で一緒に活動するような広いスペースが不足している。	支援道具を取捨選択し、活動スペースをなるべく確保できるようにしている。また、ゆくゆくは施設の転居も視野に入れていく。
2	活動プログラムが固定化されてしまっているくらいがある	ニーズが固定化されてしまう傾向があり、それに伴って同じような活動プログラムを実施する場面が増えてしまった。	取り組んでみたい活動プログラムを子ども自身が選択する機会を設けたり、係活動のような活動を取り入れたりすることで、固定化されていない活動プログラムを模索する。
3	階段の傾斜がきつく、危険である	活動スペースの都合上、どうしても階段の上り下りが多くなってしまいがちだが、急な傾斜の階段で危険性がある。	子どもが階段を上り下りする際には職員が必ずサポートに入れるポジションに居るようにして、怪我などのトラブルが起こらないよう留意する。